

1 研究主題

自らを見つめ、主体的に心身の健康づくりに取り組む子どもの育成  
—豊かなつながりを通して—

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向かうには、児童一人一人の心と体が元気であることが不可欠である。そこで、まず、基本的な生活習慣を身に付け、お互いを尊重しながらよりよい学校生活を送ろうとする活力ある児童の育成をめざす。その上で、つながりを重視した学習を展開することが、意欲をもって学習に取り組む児童の姿につながると考える。

<研究仮説>

<たくましい子どもづくり>

自らの健康状態や生活習慣を振り返る場、主体的に健康づくりに取り組むための場を工夫することで、継続して健康で安全な生活を実践していくようとする意欲や態度を育てることができるだろう。

<自ら学ぶ子どもづくり>

問題解決学習を重視し学んだことを今後の学習や自らの生活に生かすことができるような支援を工夫することで、主体的に学習に取り組む子どもを育てることができるだろう。

<思いやりのある子どもづくり>

ペア活動や縦割り班活動などの思いや考えを伝え合う活動を通して人々とのつながり、お互いを尊重し合う心情を培うことで、自他が健やかな心で生活することのよさを実感することができるだろう。

2 研究の具体

(1) **たくましい子どもづくり (健康づくり・体力づくり)**

主体的に健康づくりに取り組む子どもの育成に向けての実践

- ・ すやすやタイム (心と体を休め、午後の授業に集中)
- ・ 滝っ子ストレッチ (朝の体操で体と心をすっきりさせる)
- ・ 生活ラッキーチェック (自分の体や心を大切にす態度の育成)

(2) **自ら学ぶ子どもづくり (授業づくり)**

基礎・基本を身に付け、進んで学習するための実践

- ・ 学びのスタートライン (学習に向かう土台づくり)
- ・ 発表の話型と話し合いの仕方の提示 (話し合いの手引きを作成)

(3) **思いやりのある子どもづくり (豊かな心を育む)**

自尊感情を育て、なかまづくりの意識を向上させるための実践

- ・ 達成感を味わう場の設定 (自信をもつこと)
- ・ 受容的な雰囲気づくり (安心して自分を出せると感じる)
- ・ なかまづくり (自信をもつこと)

(4) **学びにおけるつながりの重視 (主体的・対話的で深い学びに向けて)**

- ① 学ぶ必要感のある課題設定 (課題と学習者とのつながり)
- ② 深い学びを促す交流活動 (学習場面で出会う他者とのつながり)
- ③ 生活やこれからの自分とつながる学習の振り返り (生活とのつながり)



3 成果と課題

受容的な雰囲気を感じながら学校生活を送ることや、学習したことが生活に役立つと実感しながら学びに向かう児童が増えたことは、研究の成果である。今後も、つながりを重視した授業を展開し、学ぶことに意欲をもつ児童の育成をめざしたい。

5月と11月の児童の質問紙で、肯定的な回答をした児童の割合

- ① 学級では安心して自分の意見を言うことができる。 +3.3P  
80.3P ➡ 83.6P
- ② 学習したことは、次の学習や自身の生活に役立つと思う。 +1.7P  
92.6P ➡ 94.3P
- ③ 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。 +11.9P  
74.9P ➡ 86.8P